

2023 年度「県立川崎図書館に関するアンケート」単純集計結果 分析

【分析の視点】

神奈川県立川崎図書館の利用者の状況や傾向を把握。

■ 実施期間・配付について

アンケートの実施期間は 2023（令和 5）年 11 月 13 日（月）から 18 日（土）の計 6 日間で、配布枚数は 668 枚、うち回収枚数は 437 枚となり、2022 年の回収枚数 401 枚（配布枚数 595 枚）より前年比 109%となりました。

1 アンケート回答者の情報

1) 年代

- 「19 歳以下」が 86 人（19.7%）と最も多く、「20 代」が 35 人（8.0%）で最も少なくなりました。（第 9 表・第 9 図）
- 2022 年と比較して構成比の変化が最も大きかったものは、「19 歳以下」で、約 6 ポイント増加しました。（第 9 表・第 9 図）

2) 職業

- KSP 内在勤を含めると「会社員・公務員」が 178 人（40.7%）と最も多く、次点は「学生」102 人（23.3%）となりました。この傾向は 2022 年と同様です。（第 10 表・第 10 図）

3) 住所

- 県内在住者が全体の 84.9%です。県内の内訳では川崎市在住者が全体の 71.4%となり、県立川崎図書館所在地の高津区在住者は全体の 46.5%です。2022 年と比較して県内在住者は約 8 ポイント、川崎市在住者は約 9 ポイント増加しました。（第 11 表・第 11 図）
- 県外在住者は全体の 8.0%です。2022 年と比較して約 3 ポイント減少しました。（第 11 表・第 11 図）

2 利用頻度について

- 利用頻度は「月に数回」が 181 人（41.4%）と最も多く、次は「週に数回」106 人（24.3%）、「年に数回」78 人（17.8%）となりました。（第 1 表・第 1 図）
- 2022 年と比較して構成比の変化が最も大きかったものは「今日が初めて」が約 12 ポイント減少、「月に数回」が約 9 ポイント増加しました。（第 1 表・第 1 図）
「今日が初めて」のポイント数が減少した要因として、2022 年のアンケート実施期間が社史フェア開催中であったため、初めて来館する利用者が多かったのではないかと推測できます。

3 来館目的について

- 来館目的は「個人的な利用（趣味・自習）」が 304 人（69.6%）と最も多く、次は「座席の利用（自習・休憩）」115 人（26.3%）、「仕事上の利用」100 人（22.9%）となりました。（第 2 表・第 2 図）
- 2022 年と比較して構成比の変化が最も大きかったものは「座席の利用（自習・休憩）」、「個人的な利用（趣味・自習）」が約 9 ポイント増加しました。このことについては、「19 歳以下」の利用率が増加したことが要因であると推測できます。（第 2 表・第 2 図）
- 利用しているコンテンツ（選択項目③、④、⑤、⑥、⑦）では「専門書」83 人（19.0%）が最も多く、「専門誌・学会誌・新聞」34 人（7.8%）、「社史」10 人（2.3%）、「電子ジャーナル・データベース」7 人（1.6%）と続いています。また、社史の利用を目的とした利用者が昨年と比べて約 6 ポイント減少していますが、このことについては 2022 年のアンケート実施期間が社史フェアの開催期間であったことが影響していると推測できます。（第 2 表・第 2 図）
- 利用しているサービス（選択項目⑧、⑨、⑩）では「座席の利用（自習・休憩）」115 人（26.3%）が最も多く、「展示・講座・催事」6 人（1.4%）、「調査・相談」5 人（1.1%）については少ない構成比となりました。（第 2 表・第 2 図）

4 県立川崎図書館の選択理由について

- 「家から近いから」219 人（50.1%）が最も多く、次は「静かな環境だから」192 人（43.9%）、「専門的な資料があるから」139 人（31.8%）となりました。（第 3 表・第 3 図）
- 2022 年と比較して構成比の変化が最も大きかったものは「静かな環境だから」が約 14 ポイント増加、「専門的な資料があるから」が約 9 ポイント減少しました。（第 3 表・第 3 図）

5 利用場所について

- 「個別閲覧席（キャレル席）」115 人（26.3%）、「テーブル席（カウンター前）（2023 新規追加項目）」89 人（20.4%）、「書架（専門図書）」84 人（19.2%）が主に選択されています。（第 4 表・第 4 図）
- 回答者の選択が少なかった項目は「書架（社史）」14 人（3.2%）、「書架（特許・規格）」12 人（2.7%）、「書架（ものづくり入門）」11 人（2.5%）、「ものづくりギャラリー（展示）」7 人（1.6%）、「電子ジャーナル・データベース席」5 人（1.1%）です。（第 4 表・第 4 図）
なお、調査期間中に実施されていたものづくりギャラリー展示テーマは「ダム技術と魅力 ダム技術・しくみ・治水」です。
- 書架（選択項目①～⑤）で最も多く利用されていた資料の種類は「専門図書」84 人（19.2%）で、2 番目は「専門誌・学会誌」76 人（17.4%）です。この傾向は 2022 年と同様です。その他、「特許・規格」2.7%、「社史」3.2%「ものづくり入門」2.5%といずれも低い選択率となりました。特に、「社史」の利用については、2022 年の 12.0%から約 9 ポイントの減少となりましたが、このことについては来館目的の項目と同様に社史フェアが影響していると推測できます。（第 4 表・第 4 図）

6 利用時間について

- 「1時間未満」162人(37.1%)が最も多く、「1～2時間未満」92人(21.1%)、「2～3時間未満」62人(14.2%)と続きます。この傾向は2022年と同様です。(第5表・第5図)
- 2022年と比較して構成比の変化が最も大きかったものは「1時間未満」が約8ポイント減少、「1～2時間未満」約5ポイント増加しました。一方、「3～4時間未満」と「4時間以上」を合わせると約5ポイント増加しており、長時間滞在する利用者も増加しているといえます。このことについては、新型コロナウイルス感染症による影響が落ち着き、利用者が安心して長時間利用できるようになったためと推測できます。(第5表・第5図)

7 利用の成果(アウトカム)について

- 選択率の上位4項目は、「知識・教養が深まった」149人(34.1%)、「余暇を有意義に過ごせた」130人(29.7%)、「研究や調べものが進んだ」116人(26.5%)、「仕事に役立った」102人(23.3%)です。(第6表・第6図)
- 2022年と比較して構成比の変化が最も大きかったものは、「知識・教養が深まった」が約6ポイント増加、「仕事に役立った」が約6ポイント減少しました。減少の要因については、2022年は仕事で社史フェアに来ていた人が多かったこと、また2023年は19歳以下の利用者が増加したことが関連していると推測できます。(第6表・第6図)

8 満足度について

➤ 「全般的に見た県立川崎図書館の満足度」について

- 「満足」(59.0%)、「どちらかといえば満足」(39.6%)を合計すると98.5%となります。2022年の「満足」(58.3%)と「どちらかといえば満足」(39.7%)の合計は97.9%でしたので、2023年は0.6ポイントの増加となりました。中央値も4を示しており、利用された方は現状に満足している傾向にあります。(第7表・第7図)

➤ 「資料やサービスについての満足度」について

- 「満足」が最も多く選択された項目は「施設・設備」(67.5%)です。「どちらかといえば満足」(30.0%)との合計でも97.5%と最も満足度の高い項目でした。次点は「職員の対応」(満足:57.8%、どちらかといえば満足:25.8%)です。(第8表・第8図)
- 上記以外で「満足」と「どちらかといえば満足」の合計が7割を超えた項目は、「開館日・開館時間」(83.3%)、「図書」(70.2%)です。(第8表・第8図)
- 「満足」と「どちらかといえば満足」の合計が5割未満の項目は、「パンフレット・チラシ」(47.4%)、「電子ジャーナル・データベース」(40.5%)、「調査・相談」(37.7%)、「電子書籍」(34.3%)、「産業安全・労働衛生ビデオ・DVD」(30.4%)です。(第8表・第8図)
- ただし、「満足」と「どちらかといえば満足」の選択率が低い項目において、必ずしも「不満」と「どちらかといえば不満」の選択率が高いわけではありません。それよりも「わからない」の選択率が高い傾向(67.7%から49.7%)にあります。満足度の低い項目は、認知度が低い、または利用経験がないため評価できないことを表していると考えられます。

(第8表・第8図)

- 「わからない」が5割を超えた項目は「産業安全・労働衛生ビデオ・DVD」(67.7%)、「電子書籍」(63.9%)、「調査・相談」(59.7%)、「電子ジャーナル・データベース」(57.1%)です。(第8表・第8図)
- 「不満」が最も多く選択された項目は「開館日・開館時間」(5.2%)です。2022年の「開館日・開館時間」は「不満」が2.8%で、2022年にも「不満」が最も多く選択された項目でした。(第8表・第8図)